

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

(別添様式2)

公表日: 令和4年 1月 19日

事業所名: おひさまdekiru Study

サービス種類: 放課後等デイサービス

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	事務所として使用していた部屋を「多目的ルーム」として使用し、活動に合わせて「課題ルーム」と2室を使い分けている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい 59%</li> <li>・どちらともいえない 17%</li> <li>・いいえ 0%</li> <li>・わからない 24%</li> </ul>	コロナ対策のため、保護者の入室を制限しているため、写真で室内環境を伝えていく。
	2 職員の適切な配置	子どもの人数や特性に応じて人数配置を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい 71%</li> <li>・どちらともいえない 2%</li> <li>・いいえ 0%</li> <li>・わからない 27%</li> </ul>	適正に配置されている。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	入室時の構造化・視覚化を行い、自分自身で身支度できるように工夫している。また2階に上がるための階段には、手すりを設置している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい 61%</li> <li>・どちらともいえない 5%</li> <li>・いいえ 0%</li> <li>・わからない 34%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚支援を充実させる。</li> <li>・掲示物の掲示個所の統一を図る。</li> <li>・特性に合わせた器具を用いている。</li> </ul>
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	日々の清掃に加え、コロナ対策を常に心掛け、クラスの入替えごとに消毒・除菌を徹底している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい 80%</li> <li>・どちらともいえない 5%</li> <li>・いいえ 0%</li> <li>・わからない 15%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手入れを引き続き進める。</li> <li>・室内の整理整頓を常に心がける。</li> <li>・清潔に留意している。</li> </ul>
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	事業者内に委員会を設定し、各委員による今月の達成目標に無かけて人力を尽くしている。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き行う。</li> <li>・朝のミーティング、夕方のカンファレンス時に業務改善に関する案件も行っている。</li> </ul>
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施			<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の個人情報保護と第三者による外部の評価を両立させたシステム作りが今後の課題。</li> </ul>
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	オンラインでの外部研修の参加の他、各職員のスキルアップを図るために、事業者内での独自の研修や外部研修内容報告を行った。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き行う。</li> </ul>
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	更新月より前より保護者と現状の確認を含む打ち合わせを行ったり、発達の面からの発達検査や学校のテスト結果・学校の成績等による学習面のアセスメントを実施している。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・LDセンターの受診を勧め、より専門的意見によるアセスメントの強化を図り、特性理解を進めていく。</li> </ul>
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	多目的ルームを使用した、コグトレやSSTの小グループセッションと、個別学習を組み合わせ取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい 90%</li> <li>・どちらともいえない 5%</li> <li>・いいえ 0%</li> <li>・わからない 5%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コグトレやSSTの小グループセッションの継続</li> <li>・個別学習、集団活動を組み合わせた計画作成を継続する。</li> </ul>
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	専門的な意見を基に保護者と相談しながら今取り組むべき課題を設定し記載している。また、そのために必要な力をつけるための土台作りとなる課題の記載を行っている。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・随時実践会議を行っている。</li> </ul>

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供(続き)	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	職員全員が周知し、支援計画に沿った支援の実施を常に心がけ支援にあたっている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい 93%</li> <li>・どちらともいえない 2%</li> <li>・いいえ 0%</li> <li>・わからない 5%</li> </ul>	・保護者の要望を聞きつつも、本人の特性に配慮した支援を行い、理解を得る。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	各課題の定期的な会議や、日々の学習の打合わせ時、職員間で意見交換を行い支援内容の改善に取り組んでいる。また研修等で学んだ知識を実践に活かせるよう報告し合っている。		・チーム連携を増々と意識し、ミーティングの中新しい活動の取り入れを考案しながら「学ぶ」楽しさ、「他者と関わる」楽しさを感じられる活動の取り組みを考える。
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	定期的に休日の開所を行っている。普段できないことを出来るように内容の工夫も行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい 68%</li> <li>・どちらともいえない 10%</li> <li>・いいえ 0%</li> <li>・わからない 22%</li> </ul>	・左記の支援に関する情報を全体へ通知徹底し、空き状況を伝達するようにする。
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	学習支援を中心としている事業のため、多様なプログラムはないが、日々新たな情報を取り入れ学習に活かせる活動や余暇活動の遊びを提案している。		・グリッドカや自己肯定感を高める活動を引き続き考え、保護者にも理解、協力していただく。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	日案を作成しその日の担当・役割を各自把握するとともに朝礼、各ミーティングを実施し不備や不足の確認し、ある場合はすぐに訂正、修正を行っている。また、変更が生じた場合は速やかに情報共有を図っている。		・非常勤者にも意見や指示のとり間違いがないよう、口頭及び実物で示す。 ・まずはルーティンを保守し、突然の事案にも対応する力をつける。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	毎日終礼を実施しケースに応じてカンファレンスを行い次回利用時までに必要な手立てを話し合う。また、その内容を書面に残し、休日の職員も次回出社時に確認できるようにしている。		・引き続き、一人の目だけでなくチームとして一人ひとりの子どもに適切な支援を行えるようにしていく。
	10	日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	記入するシートを工夫を凝らしながらどの職員が見ても分かりやす記述になるように努めている。その中で改善点や継続すべき課題の整理を行っている。		・記録内容的確さや質の向上に今後も取り組み、チーム全体への指示の徹底を増々行い、PDCAの流れを止めない支援にする。
11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	期間を設定して担当及び児童発達支援管理責任者・保護者とのモニタリングを実施し会議を通して見直しすべきことがあるか検討している。		・今後もモニタリング、計画の見直し、計画作成の流れを継続していく。	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	臨床心理士及び児童発達支援管理責任者、パソコン教室講師、課題主任の参加で会議を行っている。		・計画相談にて計画書が不定期に届くサイクルが合わないことがあり、保護者中心の計画となりがち。
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	これまで対象となる児童のご利用はない。		
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	これまで対象となる児童のご利用はない。		
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	・同事業所内から移行される方には事前にKinderの事業所内で済まされている情報の伝達を受けている。 ・連絡の為のアセスメントシートを保護者に配布するなどを行っている。		・可能な限り小学校との連携を取り、方針を合わせたい。 ・学校の指導計画を見せて頂きたいが少ないのが現状。
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供	対象となる児童の事業所に対して行っている。		・子どものためにも、次への事業所等に対しての情報提供は積極的に行いたいと考えている。
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	コロナ禍ではあるが、オンラインで専門性の高い研修に多数参加している。		・支援内容の充実のため、今後も積極的に受講していく。
	7	児童等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	コロナ禍、他者との積極的な関りを避けるよう努めた。また、毎年参加してる地域のお祭りは中止になった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい 10%</li> <li>・どちらともいえない 7%</li> <li>・いいえ 24%</li> <li>・わからない 59%</li> </ul>	・保護者様からは地域の学校に通っているため充分ではないかとの意見もある。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	コロナ禍、他者との積極的な関りを避けるよう努めた。また、毎年参加してる地域のお祭りは中止になった。		・地域の祭りの参加や講習会にて、可能な範囲で地域と交流する機会を持つ。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
保護者への説明責任・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	必要な学習教材の使用目的及び意図を十分に説明している。	・はい 51% ・どちらともいえない 7% ・いいえ 15% ・わからない 27%	・支援した内容を明確に、結果もはっきり伝える方針で振り返りを行う。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	コロナ禍の中、保護者様のご希望に応じて説明をさせて頂いている。	・はい 76% ・どちらともいえない 12% ・いいえ 5% ・わからない 7%	・支援計画を説明する際、懇談として時間を充分にとれるようにしていきたい。
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	毎年、弊社主催の研修会が、コロナのため開催を見合わせた。	・はい 51% ・どちらともいえない 7% ・いいえ 15% ・わからない 27%	・心理士面談や他所での研修など、年に数回の講座を設けている。 ・面談がいつでもできることを保護者に伝えていく ・過去においても在籍者に対して20%程度の受講者数止まりである。
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	コロナ禍のため、近い距離での会話を避けるべく、LINEにて課題記録を伝達させて頂いている。また、必要に応じてお電話を差し上げたり、LINEでの連絡を通して共通理解を徹底させて頂いている。	・はい 73% ・どちらともいえない 12% ・いいえ 3% ・わからない 7%	・振り返りでは足りない方には積極的に面談を勧め、保護者との関係を密にする。
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	随時面談の受け付けを行っている。また、定期的な懇談もご用意させて頂いている。また、その際、児童発達支援管理責任者、臨床心理士による助言を行っている。	・はい 68% ・どちらともいえない 17% ・いいえ 5% ・わからない 10%	・児発管面談、心理士面談のほか、他所で行われている講座の紹介もする。
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	コロナ禍のため、例年2.3回実施していましたが、今年は、中止した。	・はい 28% ・どちらともいえない 17% ・いいえ 20% ・わからない 35%	・今まで行っている講座、面談に加え、保護者同士の情報交換の場を企画する。 ・過去に実施した例では、15%程度の参加率である。
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	・苦情に対しては出来る限り状況を精査し迅速な対応に努めている。 ・寄せられる苦情は多くない。	・はい 59% ・どちらともいえない 7% ・いいえ 5% ・わからない 29%	・保護者への振り返り時は注意深く接し、話の内容から察する事柄など、気づきの力を職員が養っていく。 ・「わからない」の回答者には苦情が起きていないためというケースが多い。
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	・気になる保護者には電話で近況などを伺う体制は出来ている。 ・他、お知らせややり取りにLINEを活用している。	・はい 88% ・どちらともいえない 8% ・いいえ 2% ・わからない 2%	・子どもや保護者について少しでも気になること(心配事)があれば早めの対処も積極的に行う ・電話やLINEの活用を増やす。
	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	・おたより、個別予定表配布、LINEを活用して連絡をとっている。	・はい 100% ・どちらともいえない 0% ・いいえ 0% ・わからない 0%	・所内ポスター貼り出しの活用。 ・電話・LINEなど活用して連絡活動を進めていく。
	10 個人情報の取扱いに対する十分な対応	・取り扱いは厳重に決まった場所に保管し、守秘義務を徹底している。	・はい 88% ・どちらともいえない 2% ・いいえ 0% ・わからない 10%	・鍵のかかる保管場所を充実させる。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	・職員間で作成、共有しているが、保護者への周知徹底は、不十分な点があるようだ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい 71%</li> <li>・どちらともいえない 5%</li> <li>・いいえ 0%</li> <li>・わからない 24%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施写真の掲示やおたよりで大きく取り上げる。</li> <li>・保護者への説明、周知を徹底する。</li> <li>・活動の行い方を保護者へも配布する。</li> </ul>
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	・年間予定の中に実施日を決め、年2回実施しているが、今年は、コロナ禍のため、避難待機場所での密を防ぐためにLINEにて保護者や利用所に向けての防災の動画の案内をした。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい 61%</li> <li>・どちらともいえない 2%</li> <li>・いいえ 0%</li> <li>・わからない 37%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ中は職員間だけでの防災訓練も実施する予定。</li> <li>・保護者参加型の内容を考える。</li> <li>・動画等の送信も利用する。</li> </ul>
	3 虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	虐待防止委員会を中心に、毎月考える機会を設けている。また、ポスター啓発を行ったり、ささいな情報から未然に防げるように努めている。	/	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わずかな実例の案件を見逃さず、職員間全体で共有する。</li> <li>・月例時にて再度、委員にて見直ししている。</li> </ul>
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明し、了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	虐待防止委員を中心に必要なケースが出た場合は、どのようにするか検討会議を実施するが現在対象者がいない。	/	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要なケースにおいて、別途保護者と相談し記述する。</li> </ul>
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	・基本的におやつは提供していないが、アレルギーを持っている児童に対しての食材おやつ(成分)提供に十分に注意を払い、提供に悩む場合は保護者に必ず連絡を取っている。また、医師の指示書の更新を提出して頂いている。	/	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と連携し、家庭での対応を聞く。</li> <li>・おやつ提供の方法や発症時の対応を確認する。</li> </ul>
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	事業所の特性上、発生事例が少ないため、発生した際は、伝達用の掲示板に掲示し職員間の共通理解と対策を図っている。また、その事例の再発防止に迅速に対応している。	/	<ul style="list-style-type: none"> <li>・増々迅速に周知徹底する。</li> <li>・日々細やかな目で、子どもの安全、安心に全力を尽くす。</li> </ul>